

2015年度 プロジェクト活動レポート

大学生のアイデアで今ドキ新商品開発！

新商品開発プロジェクトFlap



マーケティングを学びながら春夏、秋冬それぞれの季節にあったレグウェアの商品開発に取り組んできたメンバーたち。

秋以降は、タイツ、ソックスの秋冬商品開発に挑んだ。連携企業であるグンゼ株式会社へ出向き、開発のプロである社員のみなさんの前で企画をプレゼンテーション。ソックス

のアイデア「ゆるカジソックス」に注目が集まり、試作へ進展、3月9日(水)～11日(金)にグンゼ社が開催したバイヤー向け展示会に出品された。プロジェクト名のとおり、「新商品開発」となるか、メンバーをはじめ関係者は大きな期待を寄せている。

オリジナルのロボット製作教室を開催

ROBOX

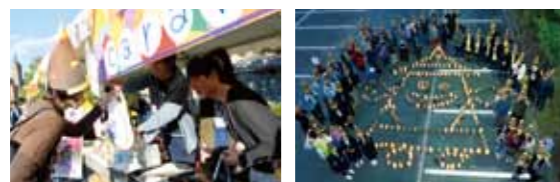


年間3回の「ロボット製作教室」を展開したROBOX。1回の教室は、「組み立て・配線編」と「プログラミング編」それぞれ3時間で2日間に分けて行う。

よりわかりやすく、よりおもしろくしようと、細部にまでこだわり、直前まで工夫を重ねる。「プログラミング編」当日の開始前には、前回作った機体が家でもちゃんと動いていたか確認し、不具合があればすぐに対応する。参加者の子どもたちだけでなく、保護者とのコミュニケーションも重要で、メンバーがそれぞれに気配りをしながら教室を進める。ロボット製作教室を通して、運営する側のメンバーこそが、子どもたち以上に成長させてもらえたのではないだろうか。

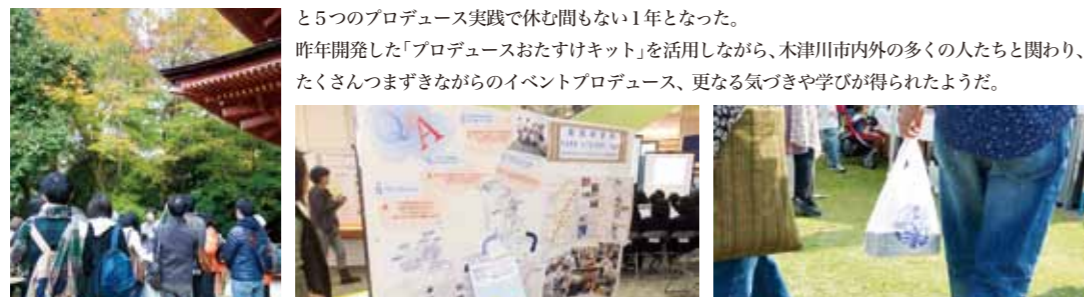
5つのまちおこしプロデュース

木津川市イベントプロデュースプロジェクト



木津川市のまちをフィールドにイベントプロデュースに挑戦。本プロジェクトで開発した「きづのもり」デザインの入ったTシャツをユニフォームに、同志社クローバー祭での「木津川キャラバン」、やましろまつりでの竹とうろうイベント「BFI」、英語版まちあるきマップ「KAMO HISTORY MAP」の開発に、留学生とともに加茂エリアのお寺や石仏の道を巡った「きづな旅」の実施、と5つのプロデュース実践で休む間もない1年となった。

昨年開発した「プロデュースおたすけキット」を活用しながら、木津川市内外の多くの人たちと関わり、たくさんつまづきながらのイベントプロデュース、更なる気づきや学びが得られたようだ。



環境教育の授業を小学校2校で実践

えこ学@京田辺

1学期の草内小学校に続き、2学期には普賢寺小学校4年生の授業に臨んだ。エコクイズやリサイクル工作からスタートしたプログラムは、「自然の循環」「森の役割」「水の循環」「食物連鎖」の3部構成で進め、実験では子どもたちがいきいきする姿に手ごたえを感じた。2校での授業の実践をもとに、今回のプログラムを環境教育教材としてまとめたが、メンバーにとっても、小学生での授業を通して子どもたちからいろいろなことを教えてもらった。この経験が新たなプロジェクトで大いに役立てられそうだ。



同志社生に同立戦や同志社ラグビーを知ってほしい！

同志社スポーツ応援隊



「楽しかった!!」参加者の笑顔にほっとするメンバーたち。伝統の同立戦観戦バスツアーは約2時間のプログラムだ。車内でのゲーム企画に、一体感を生み出すオリジナルのフェイスペイントシール。選手名鑑も配られ、応援で慌てないよう予習もできた。スタジアムでは、応援団が万全の体制で迎えてくれ、気づけばみんな応援に夢中になった。同志社クローバー祭では、誰でも投票できるラグビー部員の

「筋肉・イケメン総選挙」を実施。ワールドカップでの日本チームの活躍でラグビーに注目が集まっていたことも追い風となり、予想を遙かに上回る反響を得た。

やってみてわかったこともたくさんあり、悔しい思いもした。そんな経験を次年度の活動に活かしてほしい。